

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	低ヨード量の造影剤を用いた腹部ダイナミックCTにおける造影効果や副作用の検討		
② 実施予定期間	実施許可日から 2028年3月31日		
③ 対象患者	以下の対象期間中にシーメンス社製のCT装置（SOMATOM Force）を用いて腹部ダイナミックCTを受けられた患者さん		
④ 対象期間	2017年1月1日から2024年8月31日		
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院		
⑥ 対象診療科	第1内科、第1外科、第2外科		
⑦ 研究責任者	氏名	田辺 昌寛	所属 放射線科
⑧ 使用する情報等	<p>① 日常診療の記録から収集する項目：識別コード、年齢（CT検査時）、性別、現病歴、既往歴、身長、体重、血液検査結果（AST、ALT、総ビリルビン、アルブミン、血小板数、プロトロンビン時間）、CT画像、被曝線量、副作用の有無</p> <p>② 本研究で検討する項目：CT画像の定量評価（肝臓、膵臓、大動脈、門脈、大静脈の信号強度や標準偏差）、定性評価（臓器の増強効果、肝実質と門脈/肝静脈の明瞭さ、肝臓の末梢血管の描出能、画像のノイズ、総合評価）</p>		
⑨ 研究の概要	<p>従来、腹部ダイナミックCTは管電圧120kVを用いて、体重1kgあたり600mgIのヨード造影剤を使用するのが一般的です。しかし、CT装置が進歩してノイズ除去の再構成法が使用できるようになり、造影剤を減量しても電圧を下げることによって、臓器や病変の高いコントラストを維持できるようになっています。これらの有用性は報告されていますが、撮像法の違い（低管電圧やDual energyの使用）や造影剤の希釈方法については、まだ十分に検討されているとは言えません。また、低ヨード量の造影CTにおける副作用発現率の報告も少ないです。</p> <p>本研究の目的は、低ヨード量の造影剤を用いた腹部ダイナミックCT（低管電圧やDual energyの使用）の造影効果を、従来の管電圧120kVのダイナミックCTと比較することです。また、造影剤の希釈方法の違いによる造影コントラストや副作用の差異についても検討します。低ヨード量の腹部ダイナミックCTで腹部臓器や血管な</p>		

	どの構造が明瞭に描出できるかを評価することは、今後の腹部ダイナミック造影の画質向上を目指す上で重要な指標となります。		
⑩ 実施許可	研究実施許可日	2024年10月21日	
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。		
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。		
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。		
⑮ 研究の資金源	放射線医学講座の奨学寄付金にて行います。		
⑯ 利益相反	ありません。シーメンス社からの寄付金の受け入れもありません。また、本研究で検討する造影剤は、特定の会社のものではありません。		
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院 放射線科 担当者：田辺 昌寛		
	電話	0836-22-2285	FAX 0836-22-2285